

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	はびたむkids		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日	～	令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)
			12
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日	～	令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)
			8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用者様のことを十分に理解し利用者様・保護者様のニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されている。	個別支援計画に基づいて支援計画書をかみ砕いた個々のケース記録を作り、記録時継続なのか達成なのかを見極めるために記入したり、現在の課題になる事も記入し全スタッフが共有し課題に取り組んでいる。	保護者様、関係機関との情報共有に努めご利用者様一人一人の課題に適した支援計画を作成していきます。
2	ご利用者様が安心感をもって通所している。	毎日笑顔で出迎え、ご利用者様の考えを否定せずに受け入れられるよう意識している。集団活動に参加しにくい児童に関しては職員と一緒に同じ空間で見学し無理のないようにしている。	不安感のある児童にたいしては個別に相談する機会を設け安心して過ごせるように考えています。
3	個々に合わせた個別課題	個別課題表を作り個々の療育内容を職員間で共有し〇〇の課題は継続・達成なのかスモールステップを全員で分かち合えるようにしている。	以前出来ていた課題を忘れないように、振り返りをしながら行うようにします。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族等の参加の出来る研修、家族同士で関われる機会の取り組みがない。	懇談会を開催して、保護者様同士の交流も増えてはいるが、中々全保護者様が集まる事が難しく一部の保護者様のみとなっている。	今後も意欲的に懇談会を開催し事業所内だけではなく、遠足やハイキングと一緒にやれるスポーツなどを計画し保護者様同士でも話が出る、仲間を作れる環境を設定しペアレントトレーニングを行える機会を増やしていきます。
2	障がいの特性に合わせた環境構成について行っているが、バリアフリー化がされていない。	現在のご利用者様・保護者様にバリアフリーを必要としている利用者様が少ない為、段差や手すりなど特に意識して改良していない。	現在特別に配慮する利用者様が少ない為バリアフリーの必要がないが、必要に応じて段差を無くす配慮をしたり、手すりを設けたりする。また支援に集中しやすい環境作りを意識していきます。
3	支援開始前に職員間でその日の打ち合わせを行う事が必ずかしい日がある。	送迎があり、一人・一人の活動内容を打ち合わせするのが難しい。その日の来客・利用人数・欠席者、変更等は事前に把握している。当日の利用者様の対応などでの変更はその都度行っている。	職員の戸惑いがないように、一人で抱え込まないように日々の情報の共有や定期的な話し合いを行い職員間でのご利用者様の様子・変化・対応方法など迅速に把握出来るようにしていきます。